

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700133		
法人名	社会福祉法人 恵和会		
事業所名	グループホーム 万年青		
所在地	岐阜県恵那市大井町 2709番地87		
自己評価作成日	平成28年11月1日	評価結果市町村受理日	平成29年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiyokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2191700133-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaiyokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2191700133-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成28年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大自然が創る芸術のおもしろさに満ちた恵那峡の近くで、春は桜、夏は新緑、秋は紅葉、冬は雪景色を楽しみながら、四季を感じその時々を活かした食事や外出・行事を行って穏やかで楽しみのある生活が送れる様支援しています。また、家族との関わりを重視し、面会時には日々の様子をお伝えし、家族会ではスライドにて表情や活動の様子を知っていただき、ご理解とご協力を得ています。個別での関わりを意識し、笑顔を決やさず利用者と職員が共生していく事を目指しています。家庭のような温かさを利用者と共有することで、安心・安全を感じながらストレスなく生活できる環境づくりに、職員一同取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然豊かな環境の中にあり、四季を通じて、利用者の楽しみを見つけながら支援を行なっている。職員・家族・関係者と共に、利用者の暮らしを支え、地域のボランティアの力を借りながら、より良い利用者サービスの提供に努めている。管理者は、職員教育や各種研修会を充実させ、職員の働く意欲を高めるため、職場環境を整え、職員一人ひとりの得意な分野を引き出し、サービスの質の向上に繋げている。「よく笑うと人生はもっと楽しくなる」をモットーに、職員の笑顔が利用者者に反映されることを目指し、誰もが入りたくするような、温かい家庭的なホーム作りに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念と運営方針は事業所内に掲示し、意義や目的をミーティングや職員会議、人事考課面接時に理念を共有し、実践に繋げるよう努めている。	運営方針は、法人の理念に基づき「穏やかで、安らぎのある暮らし」とわかりやすい言葉で表現し、事務所内や廊下に掲示している。職員は、常に理念を意識し、職員会議や日常のケアの中で振り返り、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の秋祭りの神輿を受入れ、自治会と協力して消防訓練や幼稚園、保育園、高校と交流をし、市のイベント参加やボランティアの受入れをしながら地域交流を行っている。	運営推進会議や防災訓練には、自治会長の参加がある。ホーム周辺の草刈りの際は、定期的な園芸ボランティアの訪問や、近隣住民の協力を得ている。幼稚園や保育園との交流や、高校生の職場体験の受け入れなどを行ない、地域に貢献しながら交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	恵那RUN伴+(PLUS)2016に利用者職員が参加し恵那市のイベントとして訪問していただいているボランティアの方々も参加され認知症の理解を深める機会として定着している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催。利用者の状況報告、行事報告、ヒヤリハットや事故報告、介護保険制度説明等。今年度より隣接のグループホーム花の木と会議を合同にて開催する事により、意見や話し合いを深めサービスの向上に努めている。	隔月に、隣接の「グループホーム花の木」と合同で運営推進会議を開催している。利用者状況、ヒヤリハットや事故報告、また、行事計画と実施報告、介護保険制度の動向等で意見交換し、運営に反映させている。認知症カフェの開催の提案があり、現在準備中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の毎月1回の訪問により、意見交換を行っている。行政との連携、家族からの問い合わせ、申請書類等の代行や相談等協力関係を深めている。	日常的に行政と連絡を取り、事例相談や事故報告をしたり、法改正の対応について、助言を得ている。行政主催の「RUN伴」には、継続して参加している。また、成年後見制度への取り組みや、介護相談員の活用などでも連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内の研修に参加し、身体拘束行動制限や取扱要綱についての勉強会を受け、身体拘束をしない介護を理解し、職員会議では皆で議論し、共通の意識を持って対応している。	身体拘束についての内部研修会に、全職員が参加している。拘束について、正しく理解するため、転倒事故やヒヤリハットの具体例を挙げて学び、話し合っている。言葉による拘束や、服薬による抑制等についても検討を重ね、拘束のないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入所審査会等でケアマネージャーや包括支援センター職員より実態の説明を受け認識を深めている。特に心身にダメージを与え人としての尊厳を傷つける行為は虐待であると意識付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用する方が増えていることから、制度について後見センターとの意見交換や相談により、知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に施設見学を依頼し、説明にて了解を得て契約している。また、契約時には再度書類を説明している。入居後の様子、状態の変化のある場合には家族へ説明をその都度行うよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置し、苦情受付体制をとり、契約時にも説明している。また、家族会の際には直接意見を伺うようにし、ケアプランの意向確認時やケースカンファレンス開催時、面会時には意見や要望を把握するように努めている。	訪問時や家族会開催時、また、利用者、家族代表が、運営推進会議に出席した際に、意見や要望を聴いている。法人が行うアンケート調査でも、意見や要望を引き出し、運営に反映させている。家族会では、利用者の日常生活の様子をスライドで報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月事業所会議、役付者・リーダー会議を行い議事録を閲覧できるようにしている。人事考課制度により管理者は職員の意見を聞く時間を設けている。また2ヶ月に1回全体会議を開催し意見交換を行っている。	管理者と職員は、日頃から自由に意見を言い合える関係ができており、日々の業務の中でも、活発な意見交換をしている。また、職員会議やリーダー会議、年2回の人事考査や個人面接により、意見・提案を聞く時間を設け、それらを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度により年2回スタッフとの面接により希望や目標等相談しながら評価することで意欲向上に繋がるような環境の整備をおこない、働きやすい職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受けられる機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人としての研修システムにより新入職員、中堅職員、役付研修等があり、居宅事業所での学習会の参加により、知識や技術を身につけていけるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等を通じて県内のグループホーム間との情報交換や見学を受入れている。また、市内では活動を通じてソーシャルワーカー・包括支援センターや他のグループホームとの意見交換や工夫されている様子を把握するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用中のサービス施設に訪問し、日頃の様子や困っていることを把握し関係を築くよう、事前にホームの見学をお願いして安心に繋がるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に在宅のサービス担当者会議に自宅へ訪問し、日頃の様子や困惑される場面の対応等を確認し、事前にホームの見学をお願いしながら戸惑いの軽減と関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域の関係機関や法人内の他事業所と連携を取りながら適切なサービス利用が受けられる様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴を把握し、家族からの話を聞きながら、本人を受容する態度で信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒に支えていくことが出来るよう情報交換や近況報告等を通じて話しやすい雰囲気作りを心掛け信頼関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理髪に出掛けたり、家族の協力のもと外出や外泊をし、地域の認知症カフェ、歌声喫茶へ参加して交流している。	家族や親戚と一緒に外出し、馴染みの店で買い物や外食を楽しんだり、美容院に出掛ける人もある。職員と共に「生きがい大学」に参加したり、歌声喫茶で地域の人と交流をしている。また、他の施設を利用している友人に会えるよう職員が配慮し、関係の継続につなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係を把握しながら、声掛けや食事席の配慮を行い、トラブルの回避に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後先への関係は、利用者の状況や家族の状況を把握しながら関係を維持できるようにしている。病院への入院時もソーシャルワーカーや看護師、家族との連絡をとりながら対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から、聞き取った言葉や様子を介護記録やミーティングに記入し職員間で思いや意向を把握し、家族や知人との交流の中でも情報を収集するようにしている。	利用者一人ひとりの生活歴や、日常の会話や家族からの聞き取りによって把握した内容を、ミーティングノートや介護記録に記入し、職員間で共有している。会話や意思表示が困難な利用者の場合は、その人の表情や動作から、思いや意向を推測し、利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅担当介護支援員や家族から入所希望時より生活状況を確認し、事前面接時に生活歴や病歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活習慣や過ごし方、服薬について利用者や家族から確認し、どのように対応するかを職員間で話し合いながら家事や役割等を工夫するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の担当職員を中心に、毎月モニタリングを行い、法人の看護師の意見を参考にしながら、本人や家族の意向を踏まえ介護計画を作成している。	利用者の担当制があり、職員は担当した利用者のモニタリングを毎月行い、その結果をもとに介護計画の原案を作成している。ケース検討会やサービス担当者会議には、看護師や関係者の参加を得て開催し、利用者・家族の意向や要望を反映した介護計画を作成している。	介護計画作成に当たっては、職員が、本人と家族の橋渡し役となって、利用者の思いが家族に十分に伝わるよう支援し、さらに、家族が、職員に対して、遠慮なく思いを伝えることができるような工夫に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の詳しい言動や対応について申し送りや処遇、ミーティング、サイボウズを活用して伝達・記録し情報交換や検討を行うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行事の実施や外出と、法人の協力も得ながら柔軟に対応するよう取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム万年青

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや保育園、幼稚園、小学校、高校と協力を依頼しながら地域資源の活用をすることで楽しみを見出す取り組みを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事前面接時入居後も主治医と受診支援の希望を確認、相談しながらかかりつけ医との連携を築くよう努めている。	入居時にかかりつけ医についての説明をし、利用者・家族が希望を選択している。かかりつけ医への受診は家族対応となっている。協力医は、月1回の往診が有る。年1回、歯科と耳鼻科の往診が有り、利用者全員が受診している。他の専門医への受診は、家族と職員が同行し、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の医療相談で看護師と連携をとりながら、疾病別の学習会開催をしている。また、隣接する事業所の看護師とも連絡相談し、個々の健康管理を支援するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の手続きから入院中の関わりは継続し、医師からの説明には家族の同意を得て一緒に確認しながら病状や今後について相談して対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針について、書面にて家族説明し同意を得ている。状態の変化に応じて適応施設、医療機関との連携を取り、家族と相談しながらより良い選択ができるよう支援に努めている。	重度化の指針があり、利用者の状態に応じて、家族・主治医・関係者を交えて、話し合いを重ねている。家族の意向を尊重し、他の介護施設や医療機関と連携しながら、最善の選択ができるように支援している。看取りは行なわない方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で普通救命講習を受け、法人事業所内看護師による急変時の対応について勉強会参加、職員会議時にも確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の指導の下に昼夜想定で実施し、初期消火や地震対策について訓練と地域や事業の連絡網の確認を行っている。	年2回消防署指導の下で、昼夜を想定した火災訓練では、自治会長の出席を得て、初期消火方法や避難誘導を行なっている。また、今回は、職員が地震体験車両による実験を体験している。安全な避難経路の確認をしながら、地域との連絡網の整備に努めている。	災害訓練は、家族や地域住民の協力を得ながら実施することが望ましい。運営推進会議の場で検討されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳を大切に、日々の生活の場面において言葉使い、プライバシーの対応に心掛け人生の先輩として意識するよう努めている。	職員は、利用者を人生の先輩として尊敬し、自尊心やプライドを傷つけないよう、言葉遣いには充分注意するよう心がけている。入浴介助や排泄支援では、利用者の羞恥心に気配り、心配りをし、さりげない声かけと見守りで対応している。傾聴研修会には、全職員が参加している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日の昼食外出やおやつ外出等、重度と思われる方でも希望に添って実現している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各人の意思や体調に配慮しながら、家庭にいるような気楽さを重視して対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理髪や美容院は利用者の希望に応じて馴染みの美容室か訪問美容を利用し、化粧品や身だしなみは自由に行えるよう化粧品等をそろえる等支援している。家族が準備する利用者もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食物アレルギーは事前に確認し、嗜好調査を年2回行い希望の食事やおやつを把握し、郷土料理も取り入れるようにしている。嫌いな物については代替している。体調に応じて食事形態の変更も行っている。食事の準備や後片付けは職員と一緒にしている。	栄養士と調理担当者が中心となり、利用者の好みを取り入れながら、栄養バランスの良い献立を作成し提供している。また、利用者も職員と一緒に、おやつや保存食、豆腐作り、郷土食作り等を楽しみながら行っている。食事中は、テレビから音楽に切り替え、職員も同じテーブルで見守りながら、一緒に食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立を作成し、カロリーメニューを実施し栄養バランスに考慮している。食事量や水分量は毎食確認して状態把握に努めている。調理に関しては、調理作業書にて、分量・味付けを統一している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医院の歯科検診を受けている。毎食後口腔ケアに努め、義歯の不具合や調整は積極的に歯科受診に繋げている。		

岐阜県 グループホーム万年青

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時に排泄チャートを使用して排泄間隔や排泄用品を検討し、個々の排泄リズムに応じてトイレでの排泄動作の維持と不快感の軽減に努めています。	入居時の利用者の排泄状況を参考にしながら、ホームでの排泄リズムを把握し、その人のパターンに合わせた声かけと、トイレ誘導を行っている。こまめな声かけと適切な排泄用品の選択により、失敗が減り、利用者の自信に繋げ、トイレでの排泄に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を把握しながら、食物繊維、乳製品、水分補給の取り組みや運動と必要に応じて服薬の支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回を基本として、入浴状況に応じて回数や体調に配慮して安全に入浴できるよう取り組んでいます。	広い浴室には、二人で入れるほどの檜の浴槽がある。個々の希望にも柔軟に対応し、気の合う利用者同志で、入浴を楽しむ時もある。重度の利用者も、気持ちの良いゆったり気分が味わえるように、職員2人対応で介助し、安心、安全な入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムの中で安眠や休息の時間を見守り、電気アンカや電気毛布の使用、室内の温度調節について個々に対応するよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を把握できるようにケース記録に閉じ、服薬後の状態を観察し医療職と連携を取りながら主治医に申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事や行事については、季節ごとに計画し一緒に準備等行っている。日常的には家事作業で掃除、ベットメイク、配膳、下膳、洗濯等について残存機能に応じて職員と一緒に行うようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	周辺への散歩や、喫茶店やドライブに個別で出掛けている。また、家族や知人との外出についても支援している。	日常的に周辺を散歩したり、広いベランダでの外気浴、隣設のホームへの訪問等を行っている。近郊の街や道の駅へのドライブを兼ねた外出や、歌声喫茶、生きがい大学、認知症カフェなど、地域交流の場へも出かけている。家族の協力で外食や墓参りも実現している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所管理し、外出時に持参して使用している。利用者個人での管理については事前に本人と家族の意向を確認して対応している。定期的に残高の確認をお願いし、収支報告を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人への葉書を希望に応じて送付し、電話の取次ぎについても要望に応じて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられる物、馴染みの物により五感を活かせる居場所作り、食事の準備の様子、匂い、音を受けながら、季節感を感じられるよう努めている。	高い天井の天窓からの採光で、明るく開放感のある共有空間である。職員と利用者が、干支をモチーフにして作製した暖簾が廊下の壁面に飾られている。ホームの周囲には、園芸ボランティアが管理している季節の花が咲き、利用者や来訪者を楽しませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有ルーム内でソファーや椅子の配置を工夫し、利用者の馴染みの関係に配慮して思い思いに過ごせる場所作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時等に使い慣れた馴染みの物、生活用品を持ち込まれるよう家族と話し合い、居室に置くようにして居心地良く過ごして頂ける様に努めている。	居室の入口には、職員が描いた似顔絵と名前前で、利用者に、自分の部屋がわかりやすいよう工夫している。居室には、ベッドとクローゼットが備えられている。使い慣れた整理タンスや椅子、また、ギターやハーモニカ、カセットテープ等を持ち込み、楽しみながら居心地よく暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	木造作りで床はバリアフリーになっていて、個々の身体状態に応じて必要な補助具を使用し、共用部での障害物や家具の位置には動線を考えて配置しながら、安心して生活出来る環境作りに取り組んでいる。		